2024年3月17日
「はじめてのキリスト教」説教要約

愛のうちに建て上げられるため

（エペソ4・12～16）

一、キリストが立てた働き手

聖書のことばは、おおよそどこを開いてもつながっているので、途中で区切るかはむずかしいですが、12節からという区切りは適当でない思います。そこで11節から見てまいります。**〈こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。〉**と語られています。有名な聖句です。**〈こうして、〉**とは、前の節を指しています。すなわちキリストのみわざのゆえに、神が――ここでは「キリストご自身が」と語られていますが――、**〈ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました〉**と語られています。使徒、預言者、伝道者、牧師また教師は、**〈聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるため〉**に、神が、キリストが備えられた人たちです。

もっとも「使徒」の働きは終わりました。また「預言者」は、旧約時代の伝統に根ざすものであると思われますが、預言者は神の御思いを取り次ぐ特別な働き手でした。1世紀において、預言者は使徒を支える働き手として大きな働きを担ったようです。ですがこんにち「この人は預言者である」と受け止めてしまいますと、聖書で語られている真理よりも、「預言者？」のことばが重んじられるようになってしまい、あまりよろしくないと考えます。神の権威はキリストの福音のことばにあり、それは聖書のみことばからの解き明かしによるというのが、私が考えるところです。

そして「伝道者」ですが、これは時代を超えて、神が立てている器です。聖書の真理を、大人から子供まで分かるように、身近な話題を用いて興味深く語り、信仰の奨めをする牧師がアッセンブリー教団にもいますが、「伝道者だなぁ」と思います。私は、牧師の方が伝道者としても働かれるのが良いと考えています。なぜなら、牧会的な配慮ができるからです。

次に「牧師」ですが、プロテスタントの教会では、はなはだ誤解されていることばかと思います。これまでにも何度か語りましたように、ルターやカルヴァンによって宗教改革運動が始まった時、宗教改革者たちは「司祭」ということばを使いたくありませんでした。そこで用いたのが、エペソ書にある「牧師（牧者）」でした。ちなみにフランシスコ会訳、新共同訳、聖書協会共同訳は「牧者」と訳出しています。では、1世紀の時代に牧者、すなわち教会員たちの信仰面の世話をする牧者、すなわち羊飼いの役割はだれが務めていたのでしょうか。長老たちです。

最後に「牧師また教師」ということばですが、こちらはギリシア語学者の織田昭先生（故人）が、「この箇所の原語は『牧師』と『教師』という二つの教職（略）を示すのではなく、『教える者としての羊飼い』（長老）の意味である」と指摘しています。なぜなら、使徒・預言者・伝道者には、それぞれ冠詞が付いていますが、牧者と教師は、二つで一つの冠詞だからです。フランシスコ会訳は、**〈そして、この方ご自身がある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を教師また牧者として与えてくださいました。〉**と訳しています。特に、最後のところですが、敢えて**〈ある人を教師また牧者として〉**と、原語の順を入れ替えています。カトリック教会のほうが一枚上手なのかも知れません。要は、神は、キリストは、教会を建て上げるために、様々な働き手を立てられたということです。

二、愛のうちに建て上げられる

13節を見てまいります。**〈私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。〉**とあります。なぜ神は、キリストは、教会の中に使徒を置かれたのでしょうか。あるいは預言者を置かれたのでしょうか。あるいは、伝道者、牧師また教師のような働き手を置かれたのでしょうか。それは、教会に属する一人ひとりが主イエス・キリストを知ることにおいて成熟し、キリストのようになることです。一人ひとりがキリストのようになると言っても、それは決して画一された人間になることではありません。私たちはキリストのからだの部分ですから、ある人は足の働きをし、ある人は手の働きをし、ある人は耳の働きをし、ある人は目の働きをします。そして、キリストのからだである教会に組み合わせられる時、神のご計画がなって行くわけです。

16節に、**〈キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。〉**とあります。それは御霊なる神の働きによります。キリストのからだに組み合わせられ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことによって成長するようになるのは、御霊の働きです。

私は、じっくり構えて、御霊がなすわざを見るのが良いと考えます。